

部門紹介(外来)



外来部門の紹介をします。外来部門は、内科、外科、小児科、整形外科、耳鼻いんこう科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、心療内科、ペイン外来の10部門です。ただし、ペイン外来は月、水、金の3日間です。現在、眼科は休診中ですが、眼科外来の再開を望む声が多く聴かれます。看護部のスタッフ構成は、師長1人、副師長2人、スタッフ40人で、正規15人、嘱託5人、パート20人です。



【内科外来スタッフ】

また、昨年10月より、ストマ外来は認定看護師が指導にあたっています。外来、病棟問わず、活躍しています。皮膚、排泄トラブルはお任せください！

救急外来も各外来部門の集まりですが正規、嘱託の18人で担当しています。輪番日の土日、祝日の日勤と準夜勤務は3人、深夜勤務は2人、非輪番日は2人の看護師で担当しています。

外来の基本方針として

- 1 患者さんの病気の診断を正確に行い、必要に応じて入院により精査、治療を行う。外来で治療可能な場合は、極力外来で行う。
- 2 患者さんに信頼と安心安全の医療、看護を提供する。
- 3 地域の医療と密接な連携をとり、地域全体の医療の水準の向上と医療サービスの充実を図る。
- 4 医療及び看護の連携と継続の充実を図る。
- 5 接遇マナーの向上を図る。優しく、丁寧にする。

以上の事を念頭に置き、一般外来、救急外来に限らず、特に患者誤認、接遇面には注意を払い、待ち時間を感じさせないように努力しています。接遇面に関し、看護部では2ヶ月に1回のチェックリストを使い自己評価を行ったり、研修を受け振り返りを行っています。待ち時間に関しては番号札の使用や声かけなどを行っています。また、再診については予約診療がほとんどですので待ち時間はアンケートの結果から見ても短縮されています。感染症疑いや緊急性のある患者さんはトリアージし、対応しています。

在院日数の短縮に伴い、外来での療養指導を行っています。指導内容の一部をご紹介します。糖尿病教室は、第1から第4木曜日、毎週金曜日に行っており、内科医師・内科副師長・栄養士・理学療法士がかかわっています。ストマ外来は第2・第4水曜日に外科外来で医師の診察の後、認定看護師が行っています。在宅自己導尿指導は泌尿器科外来で行っています。母親学級は毎週火曜日に行っており、医師、助産師、栄養士がかかわっています。目的は①病気を持ってもその人らしい生活が送れるように支援する。②継続して支援することを通して、疾患や症状を管理し、合併症を予防して患者のQOLを高めることを支援する。③患者と家族の看護への信頼を得て、質の高い医療の保障に貢献する。

今後も私たち、外【継続療養指導】

来看護師は、他部門の協力を得、安心、安全な医療が提供できるように、心がけていきたいと思えます。

外来副師長
勝矢 桂子

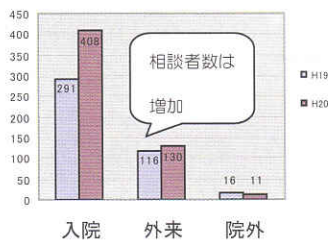
指導内容	糖尿病教室	ストマ外来	在宅自己導尿指導	母親学級
開設場所	第1小会議室	外科外来2番診察室	泌尿器科外来処置室	第1小会議室
担当者	内科医師、内科副師長、栄養士、理学療法士	外科外来看護師(認定看護師)	泌尿器科外来看護師	医師、助産師、栄養士
実施日	第1~4木曜日・金曜日	第2・4水曜日9:00~11:30	適時：医師の外来診療にあわせて	週1回(第1~4火曜日)13:30~2時間
対象者	医師の指示がある患者	ストマ増設した人 希望者または必要時	医師の指示がある人	妊婦希望者 母子手帳交付済の方
依頼方法	オーダーリング画面より申し込み(予約制)	電話又は直接外科外来へ申し込み(予約制30分毎)	直接、医師より泌尿器科看護師へ依頼	予約制
援助内容	自己管理指導とフォローアップ、療養相談等	装具の交換方法の指導・確認、スキントラブルの予防とケア、生活上の相談等	自己導尿開始時の手技の指導とフォローアップ	妊娠中の異常、栄養指導、妊娠中の生活、分娩の経過・沐浴、育児・産後の生活

全国自治体病院学会に参加して

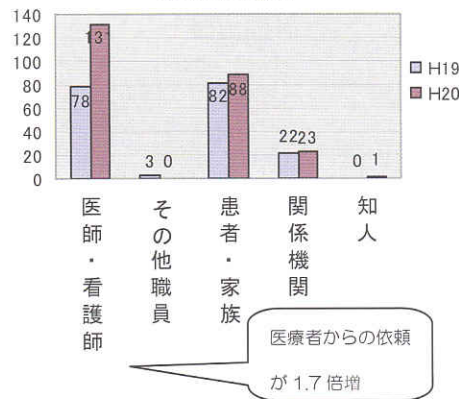


平成21年11月12日、13日に神奈川県川崎市で行われた第48回全国自治体病院学会に参加し、「がん相談に関する業務内容の変化について」というテーマで発表させていただきましたのでご報告します。当院は戦略研究「緩和ケア普及のための地域プロジェクト」(OPTIM)に参加し、平成20年1月から全入院患者を対象に退院支援スクリーニングシートの使用を開始しました。そこで早期スクリーニングの導入ががん相談業務へどのような影響を与えたかについて明らかにすることを目的とし、スクリーニング導入前後(H19、20年度)のがん相談の相談者数、入院外来別、新ケースの依頼経路、相談内容、連携機関別について比較検討をしました。

①相談人数

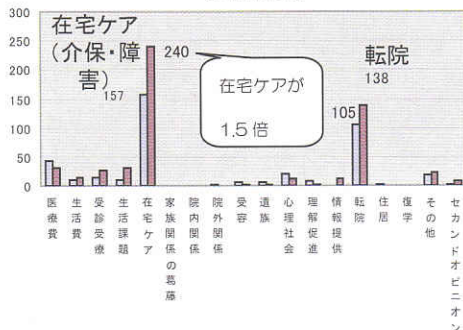


②依頼経路

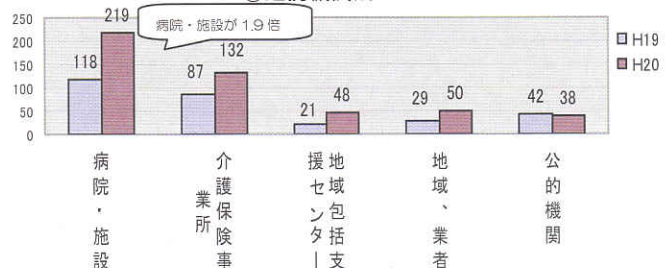


【学会にて】

③相談内容



④連携機関別



上記の結果から分かる事として、スクリーニングにより早期介入が可能となり相談者数が増加したこと(グラフ①)、病棟からシート提出と共に依頼を受けることが増え(グラフ②)医療者の退院支援への意識変化が感じられたこと、また在宅療養に関する情報提供や地域との連携により以前より多くの在宅退院調整が可能となり(グラフ③)相談件数の増加に繋がったということが言えます。そして転院支援では(グラフ④)連携する医療機関の増加により、患者家族の選択肢が増え希望にあった療養先を探すことができました。

当日は初めての学会発表ということもあり、無事に発表を終えられるだろうかと不安な気持ちもありましたが、院長にも付き添っていただき、落ち着いて発表に臨むことができました。今後も支援が必要ながん患者へのアプローチを積極的に行い、相談員として成長できるよう精進したいと思います。

地域医療連携室 MSW 森 ゆみ



医事統計(1月患者数)

	外 来 (19日)				入 院 (31日)			
	新 患	新患再来 合 計	一 日 平 均 新 患 合 計	延べ入院 患者数	新 患 入 院 患者数	一日平均 患者数	平均在院 日 数	
内 科	499	3,725	26.3	196.1	4,627	287	149.3	18.8
小 児 科	212	760	11.2	40.0	897	96	28.9	9.4
外 科	112	872	5.9	45.9	1,397	112	45.1	15.0
整 形 外 科	176	1,214	9.3	63.9	1,714	63	55.3	29.3
産 婦 人 科	85	464	4.5	24.4	732	54	23.6	15.3
泌 尿 器 科	74	921	3.9	48.5	612	49	19.7	14.1
皮 膚 科	74	614	3.9	32.3	188	10	6.1	22.1
眼 科	0	0	0.0	0.0	0	0	0.0	-
耳 鼻 咽 喉 科	108	687	5.7	36.2	403	26	13.0	15.8
精 神 科	8	488	0.4	25.7	0	0	0.0	-
放 射 線 科	44	187	2.3	9.8	64	2	2.1	42.7
麻 酔 科	10	84	0.5	4.4	39	7	1.3	6.0
検 診	37	38	1.9	2.0	0	0	0.0	-
宿 泊 ド ッ ク					4	2	0.1	2.0
(宿 泊 ド ッ ク を 含 む 計)					10,677	708	344.4	16.2
合 計 (検 診 を 含 む)	1,439	10,054	75.7	529.2	10,673	706	344.3	17.0
前 月	1,390	10,613	73.2	558.6	10,556	611	340.5	16.4
前 年 同 月	1,511	11,226	79.5	590.8	10,487	673	338.3	18.1

	前年度比較	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	初診患者	20年度	1184	1252	1223	1334	1269	1135	1322	990	1149	1044	1066
	21年度	1137	1049	1140	1243	1211	1108	1216	1200	1073	1116		
紹介患者	20年度	498	520	527	558	481	496	520	435	505	461	474	508
	21年度	536	439	476	546	482	465	521	532	478	472		
全科紹介率	20年度	48.31%	48.64%	48.90%	48.95%	45.00%	48.63%	45.39%	52.63%	53.94%	48.64%	51.88%	52.06%
	21年度	54.62%	50.91%	50.35%	51.89%	46.99%	49.73%	51.48%	52.83%	54.52%	54.75%		

	前年度比較	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	救急車来院数	20年度	115	112	102	129	144	79	118	117	124	131	118
	21年度	127	135	136	145	117	128	167	152	163	189		



病院の理念

いかなる時も優しさをモットーとして、市民の健康を守るため、地域と密接な連携のもと良質で安全な医療を提供します。

病院の基本方針 “治す 癒す 連携する”

- 病気を治すために必要な最新で正しい知識・技術の習得に努めます。
(キーワード : 科学的、理論的、EBM、正確、安全性、高度医療)
- 患者さんとその周囲の人々を癒す気持ちを持ちつづけます。
(キーワード : 人間性、哲学、宗教心、暖かさ、奉仕)
- 地域医療支援病院として、病院内外の連携を密に地域で頼れる存在であり続けます。
(キーワード : 協調性、チーム医療、連携、地域医療)

患者さんの権利

- 全ての人にはその人格、価値観などを尊重され、医療提供者との相互の協力のもとで、公平に良質な医療を受ける権利があります。
- 医療を受けるに際しては、理解しやすい言葉や方法で、診療内容に対して十分な説明を受け、必要な場合には第三者の意見を聞くことができ、その上で治療方法などを自らの意思で選択する権利があります。
- 自分の診療記録などの開示を求める権利があります。
- 基本的人権とプライバシーが守られる権利があります。

患者さんの責務

- 医療提供者に対し、求められる情報をできるだけ正確に提供する責任と義務があります。
- 他の患者さんの医療に支障を与えないよう配慮する責任と義務があります。



循環器内科の新しい仲間を紹介！

循環器内科 布廣 龍也 医長



- 〈出身大学〉長崎大学（卒業年次:平成元年）
- 〈専門領域〉循環器一般、不整脈、心不全
- 〈前任病院〉日本赤十字社 長崎原爆病院
- 〈学会認定等〉

日本内科学会認定医、総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本DMAT 隊員、長崎DMAT 隊員

平成22年1月1日から、循環器内科に赴任することになりました。苗字が、珍しく、調べてみると、全国で6家族しかいないとのことで、最近は少なくありがたいと思うようになりました。最初何と読むのか聞かれますが、しばらく働いていると、名前を覚えてもらえるからです。大学病院、日赤長崎原爆病院の勤務を経て、今回、長崎市民病院に初めて、勤務することになりました。自然豊かな東長崎に住んでいますが、病院横の道路が、東長崎と双方向に乗り降りできるようになればいいなあ、と思っています。

当院循環器内科は、虚血性心疾患、心不全、高血圧、不整脈などの心臓病に対応できる体制が構築されており、開業医の先生方や他の先生方と連携をとりながら、診療を行っていただければと思っています。これから、よろしくお願いします。

災害派遣医療団(日本DMAT)隊員に登録されました！

平成21年11月25日から28日の4日間、日本DMAT 研修(会場:神戸市)を受講してきました。

結果、最終試験にも合格し、医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務員1名の合計5名の職員が登録されました。また、循環器内科の布廣医長も前任病院の長崎原爆病院で研修に参加し登録されており、当院では合計6名のDMAT 隊員が在籍しております。DMAT 研修の内容やDMATの必要性などについて、3月号の特集で詳しく載せる予定です。



【DMAT 研修会】



長崎市立市民病院

〒850-8555 長崎市新地町6-39
TEL : 095-822-3251
FAX : 095-826-8798
HP <http://www.nmh.jp/shiby/>



発行・編集
市民病院広報委員会

広報委員長
富増 邦夫